

日本原子力学会 バックエンド部会 『原子力バックエンド研究』

投稿規定・投稿要領

(2016年4月改訂)

<http://nuce.aesj.or.jp/>

投稿規定

1. 投稿資格 どなたでも投稿できます。

2. 投稿原稿

- (1) 掲載範囲は、核燃料サイクルのバックエンド全般に関わる工学、理学、社会科学などの学際的な分野である。掲載の対象は、研究論文、技術報告、資料、総説、講演再録、会議参加記、研究紹介、その他である。
- (2) 発行は年2回で、原則として6月および12月とする。原稿は随時受け付ける。その他に、ホームページ (<http://www.nuce-aesj.org>)、本誌上、日本原子力学会春の年会・秋の大会における部会企画セッション席上、本部会夏期セミナー席上、および当部会より随時発行されるメールサービス上で原稿募集(特集内容、原稿締切日、担当出版委員など)することがある。
- (3) 原稿は本「投稿規定」および「投稿要領」に従って執筆するものとする。これらに準拠していない原稿は受け付けないことがある。
- (4) 原稿は和文または英文とする。
- (5) 投稿にあたっては、「投稿票」に必要事項を記載して原稿に添付する。希望する種別については、**3. 種別**を参照のこと。
- (6) **3. 種別**のうち、(1)~(4)については査読を行う。著者は希望する査読者を推薦することができる。推薦する査読者4名以内を連絡先(所属機関、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)とともに投稿票に記載する。
- (7) 投稿原稿(表紙、抄録、本文、図・表・写真)は、原則として電子メールで担当出版委員に提出する。郵送での提出を希望する場合には、事前に担当出版委員に問い合わせること。
- (8) 原稿作成に使用するソフトウェアは、MS-Word(本文、図表など)またはこれと互換性のあるもの、MS-EXCEL(図表)またはこれと互換性のあるもの、Power Point(図表)またはこれと互換性のあるものとする。
- (9) 投稿にあたっては、「著作権譲渡同意書」または「Copyright Transfer Agreement」に必要事項を記載して原稿に添付する。

3. 種別

- (1) **研究論文** 純学術的なものおよび技術開発に関するものを問わず、研究の対象・方法あるいは結果に獨創性・創造性があり、かつ明確で価値のある結論や事実を含み、他の学術的刊行物^{*}に公表(投稿準備中のものを含む)されていないもの。
- (2) **技術報告** 施設・設備・装置などの設計、製作、試験、運転、解析などの新しい経験やその結果をまとめた実用価値のある

内容で、他の学術的刊行物^{*}に公表(投稿準備中のものを含む)されていないもの。必ずしもオリジナリティーにとらわれない。

- (3) **資料** 研究・技術に関する参考資料、データ、および調査・集計報告などで公表する価値があると認められるもの。
- (4) **総説** 研究分野について、歴史的背景、重要性、進捗状況、今後の発展の方向など、国内・国外を問わず幅広く展望したもの。その分野の重要な研究項目がとりあげられ、要領よく分類されて、単なる個別的研究結果の羅列でなく、相互関連が明らかにされているもの。
- (5) **講演再録** 日本原子力学会春の年会、秋の大会における再処理、群分離、放射性廃棄物などバックエンド関連セッション、あるいはバックエンド部会夏期セミナーにおける講演で、出版小委員会より寄稿を依頼するもの。
- (6) **会議参加記** 国内外の会議報告で、その分野の動向やその会議のトピックスなどを伝えるもの。
- (7) **研究紹介** 国内外の研究機関・研究室における活動を報告する記事。国外の研究機関における滞在記を含む。
- (8) **その他** 出版小委員会により掲載が適当であると認められたもの。

4. 掲載料および抜刷代

- (1) 掲載料は、モノクロ、カラー原稿共に1頁あたり5,000円+税とする。
- (2) 掲載料の対象は、研究論文、技術報告、資料、総説とする。
- (3) 出版小委員会より寄稿を依頼する講演再録、会議参加記、研究紹介については掲載料不要とする。ただし、出版小委員会の判断により掲載料の負担を求める場合がある。
- (4) 抜刷を希望の場合は、50部ごとに、1,500円+税/頁を著者負担とする。

5. 投稿原稿の取り扱い

- (1) 本誌の論文の質の維持向上を目的として、研究論文、技術報告、資料、総説に関する投稿論文に対しては査読を行う。査読者は著者が推薦する4名以内と、出版小委員会が推薦する2名以上の査読候補者の中から、出版小委員会の助言を受け、委員長が2名以上を最終選定する。
- (2) 選定された査読者2名以上は非公開とし、投稿原稿に対する修正等を行わせる。
- (3) 投稿原稿の掲載決定後に、原則として初校のみを著者校正に回送する。
- (4) 掲載が決定した投稿原稿は、公開準備が整いしだい、随時ホームページに公開する。

6. 著作権

掲載記事の著作権は、日本原子力学会に帰属する。したがって、他の出版物に掲載する場合は、本学会の承認を得なくてはならない。また、無断で転写できない。なお、他の出版物の著作権と抵

^{*}学術的刊行物 学協会または権威のある審査機関による審査を経た論文などが掲載されている刊行物で、通常的手段で入手が可能なものとする。なお、配布が限定された会議報文集、社内報、紀要等は含まれない。

触する場合は、著作権使用の承諾書を投稿原稿に添付すること。

7. 著者の責任

掲載された記事内容についての責任はすべて**著者が負うもの**とする。

8. 個人情報の取り扱い

著者から提供された個人情報については、法令に定める場合を除き、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に提供しない。

投稿要領

1. 投稿に当たって

- (1) 原稿は「投稿規定」および本「投稿要領」に従って執筆するものとする。これらに準拠していない原稿は受け付けないことがある。
- (2) 投稿にあたっては、以下を提出することとする。
 - ・ 投稿原稿
 - ・ 投稿票
 - ・ 著作権譲渡同意書または Copyright Transfer Agreement※投稿原稿は MS-Word 等と互換性のあるファイル形式、および PDF 形式の二点を提出することとする。
※「投稿票」と「著作権譲渡同意書」または「Copyright Transfer Agreement」は、本誌差し込み、あるいはホームページ (<http://nuce.aesj.or.jp/>) から入手、印刷可能である。
- (3) 寄稿依頼した原稿についても本「投稿要領」に従って執筆するものとする。

2. 原稿の形式

原稿は指定のフォーマットに従って作成することとする。フォーマットはホームページ (<http://nuce.aesj.or.jp/>) から入手できる。

3. 原稿の書き方

- (1) 用語は当用漢字・現代かなづかいに準じ、文体は「である」調に統一する。専門用語はなるべく、文部省学術用語、JIS 用語を使用する。
- (2) 単位はできる限り SI 単位系を使用する（日本原子力学会誌の投稿の要領参照）。単位は、 3.0 ms^{-1} または 3.0 m/s のどちらの形式でもよいが原稿内では統一する。ただし、 mol^{-1} のような場合は mol/l または $\text{mol} \cdot \text{l}^{-1}$ の方が望ましい。
- (3) 章番号は 1, 2, ..., 節番号は 1.1, 1.2, ..., 項番号は 1.1.1, 1.1.2, ..., 目番号は (1), (2), ... とする。それ以下は任意である。
- (4) 脚注は右肩に 1), 2) のように書き、そのページの下欄に記載する。
- (5) 句読点については、読点は「 , (カンマ)」、句点は「 . (ピリオド)」とする。
- (6) 文献引用に当たっては、参照する順に [1], [2, 3], [4-6, 8] のように書き、参考文献は本文末尾にまとめて記載する。文献の略称は INIS の文献略記法を参考にする。参考文献はなるべく詳細に記載する。和文の文献を英文原稿中に引用する場合は末尾に (in Japanese) と付記するとともに、雑誌名の表記にも注意する。
- (7) 図、表および写真は、本文中では、Fig. 1, Table 1 のように通し番号で引用し、挿入位置を本文右欄外に指定する。図表の説明は、会議参加記ならびに研究紹介を除き、本文が和文、英文にかかわらず、すべて英文とする。ただし、図・表・写

真中の表記は和文か英文のいずれかに統一する。本文中で文頭に Figure1 と書く際に、英文の場合は Figure1、和文の場合には Fig.1 と表記すること。

- (8) MS-Word の機能である参照機能（文献と文献番号、図表と図表番号、章番号など）は使用しないこと。

著者名 1 名の場合は、「妹尾宗明」（和文文献）または「Senoo, M.」（英文文献）、2 名の場合は、「池田孝夫、塚本政樹」または「Ikeda, T., Tsukamoto, M.」、3 名以上の場合は筆頭著者名のみを記してもよく、その場合は「長崎晋也 他」または「Nagasaki, S. et al.」と書く。

雑誌の引用 著者名：論文タイトル。雑誌名 巻数（ボールド体）、開始ページ-終了ページ、発行年の順で書く。

- [1] 渡辺邦夫, 田中達也, 三枝博光: 地質および地下水水理現象の解明を基礎としたナチュラルアナログの研究。放射性廃棄物研究 2, 3-12 (1996).
- [2] Nordstrom, D. K., Ball, J. W., Donahoe, R. J., Whittemore, D.: Groundwater chemistry and water-rock interaction at Stripa. *Geochim. Cosmochim. Acta* 53, 1727-1740 (1990).

単行本の引用 著者名：書名、(編者) 出版社、出版地、(開始ページ-終了ページ)、発行年の順で書く。

- [1] 日本化学会 編: 化学便覧 (改訂 3 版) 基礎編 II, 丸善, 東京, pp.II-166-II-182 (1984).
- [2] Stumm, W., Morgan, J. J.: *Aquatic Chemistry*, 2nd edn. Wiley Interscience, New York (1981).
- [3] Chen, J. H., Edwards, R. L., Wasserburg, G. J.: Mass spectrometry and application to uranium-series disequilibrium. In: *Uranium-series Disequilibrium: Applications to Earth, Marine, and Environmental Sciences*, 2nd edn. (Ivanovich, M. and Harmon, R. S. ed.) Clarendon Press, Oxford, pp.174-206 (1992).

レポートの引用 著者名：タイトル。レポート名・番号、発行機関名、発行年の順で書く。

- [1] Skållberg, M. et al.: Partitioning and transmutation (P-T) 1995: A review of the current state of the art, SKB TR 95-32, Swedish Nuclear Fuel and Waste Management Co. (1995).
- [2] 動力炉・核燃料開発事業団: 高レベル放射性廃棄物地層処分研究開発の技術報告書-平成 3 年度-. PNC TN 1410 92-081 (1993).

プロシーディング・学会予稿集・要旨集の引用 著者：論文タイトル。プロシーディング名 (編者名)、巻数、開催地、開催日、開始ページ-終了ページ、発行年の順で書く。

- [1] 北川禎三: 時間分解共鳴ラマン分光法による鉄・銅酸化酵素群の反応機構の解明。理研シンポジウム 生態微量元素'96, 理化学研究所, 平成 8 年 3 月 25 日, pp.5-6 (1996).
- [2] Rai, D. et al.: The solubility of Th(IV) and U(IV) hydrous oxides in concentrated NaHCO_3 and Na_2CO_3 solutions. *Scientific Basis for Nuclear Waste Management XVIII (Mater. Res. Soc. Symp. Proc. Vol. 353)* (Murakami, T. and Ewing, R. C. ed.), Part 2, Kyoto, Japan, October 23-27, 1994, pp.1143-1158 (1995).
- [3] 木村英雄 他: 地層処分の安全評価におけるパラメータ不確かさに関する研究 (1)方法論。日本原子力学会 1996 秋の年会, 大阪, 3 月 27~29 日, L23 (または p.686) (1996). (注: 日本原子力学会は春は年会で要旨集, 秋は大会で予稿集と呼称されている)

参考

一部の接続詞・副詞・送り仮名・当て字等は，原則的に常用漢字等に従って統一するように努めて下さい。

<例>

| | | | |
|-----------|-------------|--------------------|---------------|
| また・又 | また | ない・無い | ない |
| わかる・分かる | | わかる・分かる | わかる |
| および・及び | および | のうえ・の上 | のうえ |
| | (動詞「及ぶ」は漢字) | | (位置を示す「上」は漢字) |
| したがって・従って | したがって | ような・様な | ような |
| | (動詞「従う」は漢字) | ごと・毎 | ごと |
| とくに・特に | とくに | あたって・当たって | 当たって |
| すなわち・即ち | すなわち | 一つ・2つ | 1つ・2つ |
| おおむね・概ね | おおむね | 百年・100年・数千年・数1000年 | 100年・数千年 |
| すべて・全て | すべて | 1/2・三分の一 | 1/2・1/3 |
| とき・時 | とき | 使用済み核燃料・使用済核燃料 | 使用済み核燃料 |
| こと・事 | こと | 単位 kW | kW |
| いつ・何時 | いつ | きわめて・極めて | きわめて |
| さまざま・様々 | さまざま | 六ヶ所センター・六カ所センター | 六ヶ所センター |
| できる・出来る | できる | さらに・更に | さらに |

チェックリスト

原稿をご提出いただく前に以下の項目のチェックを各自でお願いします。

投稿票に必要事項を記入していますか。

著作権譲渡同意書に署名がされていますか。

原稿は指定のフォーマットで作成されていますか。

電子化した原稿の提出

1. 原稿は、MS-Word 等の互換性のある形式で作成されていますか。また、PDF 形式のファイルも準備されていますか。

原稿の書き方

1. 用語は当用漢字・現代かなづかいに準じ、文体は「である」調に統一されていますか。専門用語はなるべく、文部省学術用語、JIS 用語を使用していますか。

2. 単位はできる限り SI 単位系を使用していますか。

3. 章番号は 1, 2, ..., 節番号は 1.1, 1.2, ..., 項番号は 1.1.1., 1.1.2, ..., 目番号は (1), (2),...とされていますか。

4. 脚注は右肩に 1), 2) のように書かれていますか。

5. 図・表は、 Fig. 1, Table 1 とされていますか。

6. 図・表の挿入位置が本文右欄外に指定されていますか。

7. 図・表の説明は英文で書かれていますか。

8. 句読点はそれぞれ「 , (カンマ) 」, 「 . (ピリオド) 」ですか。

9. 文献は[1], [2, 3], [4-6, 8] のように引用されていますか。

10. 文献の略称は INIS の文献略記法に則っていますか。

11. 参考文献はなるべく詳細に記載されていますか。

12. 和文の文献を英文原稿中に引用する場合は末尾に (in Japanese) と付記されていますか。

13. 引用文献リストの書き方は「投稿要領」に従っていますか。